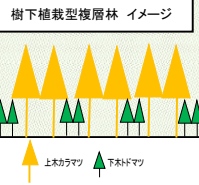


研究の背景・目的

当支署管内には、カラマツの一斉林からトドマツ等へ樹種転換することを目的に、裸地化せずに樹下植栽された複層林箇所が多く存在しています。

こうした箇所では、下木（トドマツ等）が植栽後20年を経過しており、トドマツの成長を促すため、カラマツの伐採を行ったり、下木トドマツの間に3段目の植栽を行ったりした箇所もあり、今後どのような林分へ導いていくのかを検討いたしました。

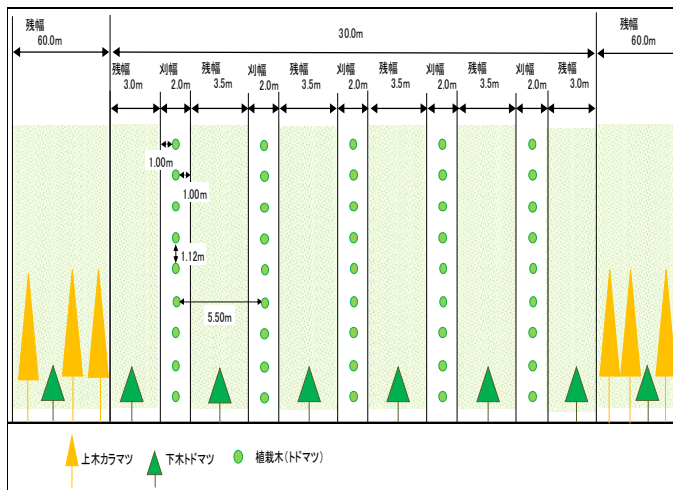


研究の内容・成果

上木伐採後の下層にあるトドマツの成長と3段目の植栽を検討するため、5年及び10年経過した林分についてトドマツの成長等調査を行いました。



樹幹は一部では閉鎖するなどし、下層の植生については、笹の回復が主となっており、確実な更新には植え込みが必要であると推察されます。また、2段目の列間幅により3段目へ光の届く環境の整備が必要です。



次に、上木のカラマツを30m幅で伐採し、2段目の列間に植栽を行った林分について現況を調査しました。

当該林分は樹下植栽として、平成11年にトドマツを植栽(1,200/ha)し、令和2年度に3段目のトドマツを植栽(1,500本/ha)しています。

2段目のトドマツの平均直径は8cm・平均樹高は5.3m・残存本数は1,000本/haとなっています。

今後の2段目の間伐により、3段目の成長を促すことも必要となってきます。

また、残存する上木のカラマツについても同様に伐採の時期等を考える必要もあります。

今後の展開

今後は、上木の伐採を行いながら2段目の成長を促し、その成長具合を見て上木カラマツとともに間伐を行っていき、3段目の導入時期、樹種等について検討を行っていきます。

樹下植栽箇所には日当たりが良い・下層植生も笹が薄い・林地傾斜も緩い等・様々な林地条件があり、地表処理等も考慮しながらこの先の100年にむけて施業の検討が必要です。